

平成30年度第2回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会会議録要旨

<日時> 平成31年2月18日(月) 午後1時30分～2時35分

<開催場所> 市役所分館 会議室

<出欠状況>

山本	掘川	児玉	寺島	戸塚	原田	山川
欠席	○	○	○	○	欠席	欠席
山中	今泉	佐藤	大原	上村	新山	大森
○	欠席	○	○	○	○	欠席
北田						
○						

<事務局>

子育て支援課長 学校教育課長 子育て支援課副課長

子育て支援課主事

<傍聴人> 0名

<次第>

- 1 開 会 子育て支援課長
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題 (1) 事例研究
- 4 情報交換
- 5 事務連絡
- 6 閉 会

<議事>

(1) 事例研究

【会長】本日は事例研修として、一昨年の3月、鶴ヶ島市のいじめ問題に関する報道内容から、どのような対応が考えられるのか、皆様から様々なご意見をいただき、今後に生かしていただきたくお聞きするものです。各委員さんから発表をお願いします。

『設問1 この事案が起きてしまった原因や問題点に関して』

【委員】直接的な原因もそうですが、それ以上に、誹謗中傷や恐喝を止める者がいなかったのか。普段接している中で、様々な違和感のようなものがあったと思うのですが、大人がそこを感知できなかったのか。また、家庭は気づかなかったのかどうか、そういうところも非常に大きなポイントになると思っています。自殺を図った児童が自分の思いを表現するところにも、学校教育として子どもたちの指導がどのように進められていたのかも疑問が残ります。学校ができること、家庭でできること、周りの大人たちがで

きること、それぞれがきちっと機能していたのかというところが、やはり我々が考えないといけないことだと思いました。

【委員】私の中学校では、学期1回ずつ3回アンケート調査をしています。私たちが気づかなかったところや、他の子どもの情報提供も含めて、すぐに対応する案件が出てきた場合は、全力で対応しています。それで終わりじゃなくて、必ず最後どうなったかということ、人間関係が完全に修復するとは思いませんが、いじめられた子どもが安全に学校に来られるよう、見届けていく体制が必要だと思います。また、どんな事情があったのか新聞報道だけでは見えませんが、その辺を学校側と保護者が悩みを共有することが必要だと思います。

【委員】共働きであれば保護者はなかなか一挙手一投足見るということは難しいと思いますので、親の目の届かないところでのいじめというのが、一番大きい原因なのかなと。学校側が全部把握するのも難しいことなので、帰ってきた子どもの様子を見て、親がちょっと違うところを気づいて、防いでいくことなのかなと思います。子どもが帰ってくる時間帯に親がどちらもない状態だと、この子もだいぶ追い詰められた部分があるのかなというのがありますね。

【委員】この問題は絶対に大人の介入が必要と思いました。被害にあった子は、毎日辛くて出口のない日々が続いている訳ですが、必ずこういうことは終わるということを強く意識してもらい、乗り越えないといけないんじゃないかと。ただ、小学校5年生というのはまだまだ幼いので、教師や親が手助けをしなくちゃいけないと痛感しています。

【委員】いじめの問題というのは本当に些細なことから始まっていく訳なんです。未熟な子どもたちですから、人間の尊厳について学校教育の中でも、色々な場面で指導している訳ですけれども、浸透しないというか。そこから、こういう大きな問題になってしまうのではないかと思います。

【委員】いじめられている心理状況というのは、自分がだんだん価値のない人間に思えて、助けてって言うのに自分が値しないと思込まされていく状況だと思います。ですので、やはり助けてって言えるような啓蒙が必要です。加害者の子たちについては、先生も心配されていましたが、今度はやった子がターゲットになって、周囲から攻撃されるという構図もあり、加害者の子たちの今後の将来が本当に心配なのですが、やはりその背景や原因として家族関係がとてつもなく気になります。いじめだけでなく、虐待も生活困窮も、助けてって周囲に発信できるような子育てや教育が必要だと思います。助けてって言うことと、自分を好きでいるということ、そういうシンプルなことを教えていきたいです。

【委員】命の大切さというのは、学校で教えるよりもまず家庭でそれを子どもたちに伝える。口ではなくて、伝わるような生活をまず親がしていくことが、一番底辺にあって大事なことじゃないかと思うのです。いじめをする

子の心理も、いじめられて誰にも訴えられない子の心理も、どこか自分の生き方、自分っていう個性に満足していない。良いとか悪いとかじゃなくて、満足していたらいじめをするような心理にならないと思うのです。自分の中に過不足がある、それを思うのは親かなって、親から言われてきたことや、先生、友達とかに言われた言葉がずっと蓄積していると、自分ってだめな人間だ、どうしようもない子だと思ってしまう。まず生きて行くには、自分って案外いい人じゃないのってところからスタートしないと、何か小さいことがあっていじめられちゃったと思ったりするんじゃないかと思うのです。子どもが帰ってきた時の様子がおかしいとかいう時の、親の対応がすごく大事だと思うのです。今のお母様方は忙しいので、なかなか家においてお帰りなさいって言うことができないかもしれないけれど、子どもとのコミュニケーションを、もっともっと皆さんが、一人の相對した人間として関わっていただきたいということはすごく感じるんですね。

『設問2 もし同様なケースが富士見市で起きた場合に、委員の皆様方の立場から、未然に防ぐためにどのような取組ができるか』

【委員】学校教育の現場では、いじめはあるものと思って指導しています。もちろんないに越したことはないのですが、やはり最悪の部分を考えて、対応をしているところです。いじめの直接的な対応もそうなんですけれども、それ以上に日常生活だったり学校生活を充実させていくことが大事だと思います。今日も6年生を近くのうどん屋さんで240名を4班に分けて、地域の方々と保護者の方々と子どもたちで、うどん打ち体験をやってきましたんですが、なるべくそのような場面を利用して、コミュニケーションが図れる活動をしているところです。直接いじめに作用するということではないんですけど、人の優しさだとか人の思いだとかつながりみたいなものを意識できる活動を通じて、いじめがなくなるような取組ができればと考えているところです。あと、先ほどの設問1にあった課題として周りの人の気づきですね。このようなものが非常に大事になってくると思っていますので、そのような部分で我々自身がアンテナを高く張り、何かおかしいなと思った時に、すぐに機能ができるシステムだったり対応だったり、そのようなことはきちっと共通認識をして日頃から備えています。

【委員】コンビニの方がちょっとおかしいということに気づいて、声をかけたというところで、こういうPRをしていてもいいかなと思います。万引きをさせられている子もいますし、ちょっとおかしいなというところを社会的なアンテナを広く張るといえるのでしょうか、そういうようなことも必要だと思います。あとは私としては、この加害者の子どもはどうなっていくのかなっていうところも、同じ児童ですから、中学校に上がってきてその

子の思いはどうかなって。言い方をちょっと変えると、加害者も被害者の立場かなと。その子のフォローというか、いじめなければならなかったその子どもの心理にも立ち入っていかないと、治っていかないのかなというふうに思います。

【委員】 お店の方たちにそういうことを啓発していくっていうか、忙しいとは思いますが、地域の子どもを見守るという意味合いで、なるべくそういう目配りをしていただくように要請するというのは、あってもいいと思います。

【委員】 それぞれの子の性格で難しいところもあるけれど、いじめを受けている子が、私いじめられているのよって言える場所っていうのは、親であったり学校であったり絶対的に必要だになって。この辺は先生方が、色々と苦慮してご努力されているところだと思います。その上でいじめをする子、何でいじめの？ どういう理由なの？ って、そのところをよく聞いて、解決していかなくちゃいけないと思います。

【委員】 いじめの問題というのはどこにでも起こりうる問題で、本市ではきちんとなさっているとは思いますが、市の教育委員会の体制、それから学校教育体制、それと保護者の自宅での充実というのが、本市ではかみ合っているからこそ、上手くいっているのではないかなと思います。やはりその辺がまだまだですと、大きな問題になってしまうと思います。子どもが学校生活を正常に送れるような良い環境づくりというか、それは第三者が丁寧な話し合いのもとに、密に連携を図っていけば防げるのではないかなと思います。

【委員】 大人も含めた孤立を防ぐ取組なのですが、いまコンビニでも子ども食堂を始めるというニュースもありますが、基本的には福祉行政の仕事だと思うんですけども、そこを土台に、いじめサポーターも企業も参加されて、工夫していただけるとありがたいと思います。また、ひと時キャブワークショップというのを盛んにやっていたんですけども、そういったことや暴力とは何かという学習、あと子どものネットいじめって今よくあると思うんですけども、その使い方もそうなんですけども、実際この機器を手に入れていることで、脳や神経にも大きな影響があるので、そういったことを私たちも学んで、生の人間関係の中で育つコミュニケーションというところを、大事にしていくことかなと思います。

【委員】 トラブルに巻き込まれるというのは、その子に自信がないっていうことだと思うんですね。こんなことはだめだって言える強い心があるってことは、自分自身に肯定感がないとできないと思うのです。自己肯定感というのは、子どもの場合は親から受け取る訳で、やっぱり家族関係ってものすごく大事だと思います。学校の先生は家庭の中には入って行けないけれど、先生なりの子どもの自己肯定感を育ててあげるスキルというのをお持ちだと思うので、表面だけ見るのではなくて、そういうようなことを調

べて、子どもたちが安心して学校に行ける、友達と遊べる、そういう環境を先生方ならできるので、是非そのようにしていただきたいと思います。

【委員】 被害児童から何らかのSOSが出ていたはずだと思いますので、地域全体を通してそういったSOSに気づけるような、アンテナを張るような街にしていきたいなというのが、まず第一に思いました。いじめ側もいじめられる側にも、最終的には心の何かが原因になっていると思います。その心の原因を作るのは、僕個人としては家庭や保護者に何らかの問題があるのかなと思いますので、保護者を含めた面談を通して、いじめ防止に努めていくのが一番いいと思います。なかなかアンケートを通して、表に出せない子もいるんじゃないかと想像します。時間もかかるんですけども、実際に自分が加害者になってしまった場合、最終的な末路はどうなるのかということ想像して、心にちょっと響かせるような指導が理想的なのかなと考えます。

【委員】 早い段階での気づきという点では、ネットワークって大事だと思うのですが、なかなかコンビニで発見しても、すぐに警察に通報というのは難しいのかなという気がします。だったら子育て支援課に連絡くださいっていうところを、周知していこうと思っているところです。

【委員】 学校の方は校長先生からもございましたように、いじめ防止基本方針というのを作成しまして、計画的に年間を通して指導しているところです。また、学級の方ではいじめのない学級づくりということで、今、力を入れているのは自尊感情とか自己肯定感を高めるという人間関係づくりです。それを基に、学校と家庭と地域の皆様に協力して、なるべく多くの目で一人ひとりの子どもたちを見ていただいているところです。そこから学校は、生徒指導委員会とか名前は学校によって違うんですけども定期的に会議を開いています。学校は担任を始め、校長先生や支援員さん、スクールカウンセラーさんもいますし、あとは相談員さんとかもいますので、たくさん目の目で見ているところです。教育委員会としても、このような学校を支えるため、まず、いじめのない学校づくり委員会を作っています。大学の先生や弁護士さん、スクールカウンセラーや臨床心理士さん、人権擁護委員などの皆様が専門的な立場で、いじめのない学校づくりに対してアドバイスをいただいているところです。また、子どもたちの内容としては、いじめのない学校づくり子ども会議を毎年行っております。ここで子どもたちが主体的に話し合いをして、学校で自分たちがどのように行動するかということを考えていることです。ここで話し合われたことは、各学校で行動宣言として実践に移しているところです。また、ピア・サポート活動というのがその中にあるんですが、子ども同士でいじめをやめようと主体的に取り組んでいる活動が今あります。その他にもいのちの授業などの取組を通して、命の大切さについても考えているところです。富士見市はいじめの認知件数が多い方ですが、小さなものも見逃さずにみんなで見て認知

していこうと、そして解決をしていこうという趣旨でございます。その中でもなかなか解決に導かないものについては、継続的に指導をしている。そして解決したことについても、その後の見届けをきちんと学校ではしてくださっているところです。今後も学校と家庭と地域の皆様で協力して、たくさん目の子どもたちを見たり、話しかけたり、子どもたちの話を聞いたりということをやっている、これからはいじめのない学校、富士見市を作っていきたいと考えているところです。

【会長】 委員の皆様方ありがとうございました。各委員さんから発表していただきましたけれども、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

【委員】 去年子ども会議の方は、推進員としておじゃまして話を聞いたのですが、本当に色々な子どもたちの話があって、大人の立場としては富士見市の子どもに対して、良くやってくれているなというのは感じたんです。学校ごとの様々な発表があって、ああ、本当に実践してやっているんだっていうことを感じましたが、中には問題点じゃないですけども、子どもたちが気にしていることもありました。いじめを訴えるような投書箱が、保健室だったり職員室の横に設置してあるということで、子どもの中には、自分がそこに入れるのを他の子に見られたり、先生に見られたくないっていうのが結構意見に出たんですよね。だから、本当の意味でちゃんとSOSを出してくれる子というのはどのぐらいいるのかなど。その辺は、やり方というか、素直に学校で訴えができるようにするために、もうひとひねり必要かなっていうのを感じました。

【委員】 おそらくは個別にっていうことですよ。学校でも学期ごとにアンケートをとっていて、それとの整合性というのはどうなのでしょう。個人的に得たものが上がってきたりというのはあるんでしょうか。

【委員】 すべての生徒から集めるんですが、当然それで完璧とは考えていません。なかなか自分がいじめられているということを、子ども自身が言えないところもあり、今のような状況も一つの現れかと思えます。ただ、色々な状況で総合的に見ていかないとと思えます。残念ですが評価する教諭には、子どもも本音を語らないということが意外とあるんですね。そうすると相談員さんとか養護教諭とか、そういう評価に関わらない人には本音を語ったりするので、そういうところでの情報共有とか、そんなことで色々なアンテナを張っていかないといけないと思っています。

【委員】 子どもたちはアンケートで訴えを言えたとして、誰が見るのかということに気になっていますよね。校長先生が見るのか担任の先生が見るのか、それとも養護の先生が見るのか、だから誰が見るのかわからないしということも言っていましたね。だから、あそこに入れた子は問題がある子だとかいじめられている子っていう見方じゃなくて、いじめ以外でも反対に○

○さんが今日良いことをしていましたっていう良い事でもいいと思うんですよね。悪い事だけを集めるというんじゃないくて良い事も入れることで、入れること自体が悪い事ではないってことにならないと。

【委員】私も子ども会議の一回目の時に、市民会議の広報で取材に行ったんですが、その時はまだ一回目だったから、そういうような意見は全然出ていなくて、みんな前向きにうちの学校ではこうやっていますと言っていて、すごいなと思って聞いていたんですけども、やっぱり何年もやっているうちにそういうものが出てくるんだなという気がしました。

【委員】各小学校それぞれ特色を出していて、子どもたちも自発的に取り組んでいるみたいでいいなと思ったんです。問題点についての意見もあったから、子どもたちは正直に話しているなと思って、それだけ真剣に子どもたちもちゃんと向き合っているというのはわかったので、それは一つの収穫でした。本当にいじめをなくしたいと思っているからこそ、色々な心配までしているのかと思うと、小学生と言えども、置かれている今の現状は大変なんだなと思いました。中学生の方は聞けなかったのですが、まとめたものを見た時にはやっぱり大きくなって分、色々なことで自分で対処できるよう力をつけているので、そういう意味では成長を促すために、学校の先生の教育っていうのは必要なんだなと感じました。家庭教育では、もう何十年か前から子どもは褒めて育てるが主流になっていますが、子どもを認めることは必要だけれども、悪い事は悪いで教えなければいけないですし、じゃないと人を思いやる心は育たないと思います。

【会長】ありがとうございました。他にどうでしょうか。

【委員】人権擁護委員も、人権の授業を年に一度ですが学校の方から要請がありまして伺うのですが、授業後に子どもたちから、感想をいただくんですけども、ある時、感想の中に僕は今いじめられてますというふうなものがありました。読んですぐ学校側の方に、こういうお手紙があったのでちょっと調べてくださいというふうなお返しをしたら、たいしたことではなかったのが良かったんですけども、でも、子どもたちがそういうふうに見える環境を、学校が作っているっていうのは私はいいなと思ったんですね。人権擁護委員の方でSOSミニレターというものを学校側に、法務局の方からきてお配りしているんですけども、その授業の中に「勇気のお守り」という表題で、ある子がいじめられていて人権教室があって、人権擁護委員の人が何か困ったことがあったら、SOSミニレターを書いてくださいっていうふうな場面があるんですね。授業が終わりまして皆さんに、SOSミニレター下さいねってかたちでお配りしたんですけども、ある男の子が僕は書くことが2枚もあるから、僕は2枚もらって行くというような、担任の先生の前で言ってましたけれども、だから今のお話ではないですけども、子どもが自由にね、先生の目を気にするじゃなく、心の中で思ったことを発言できる環境を作って、校長先生はじめ先生方のご

努力で作っているというのがわかりましたので、今後ともそのような方向でお願いしたいと思います。

以上でございます。たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

5. 事務連絡

6. 閉会 副会長